

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100644		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会		
事業所名	はなぞのケアセンター グループホーム		
所在地	熊本県熊本市西区花園7丁目25-23		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成30年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はなぞのケアセンターは、同一建物内にご利用者やご家族の状況に合わせた、柔軟で切れ目のない、安心して過ごせる居場所を提供しています。通所介護で仲間や馴染みの関係を作り、心身面で機能低下などが表れてきた際は、小規模多機能を利用し、認知症などで在宅生活が困難となった場合に、グループホームへ入居頂き生活の支援を行っています。施設内で自由に行き来できる環境が友人や馴染みの関係を維持しつつグループホームで生活できることを特徴としています。地域との交流も多く、柿原盆踊り大会・地域敬老会・サロン・秋祭り・餅つき・どんどや等、人と人の繋がりの継続を大切にしています。季節を感じていただくために花見・運動会・花火・敬老会・クリスマス会・忘年会などを開催し、ご家族に個人ごとの写真付きお便りを送らせて頂いています。住み慣れた空間で、最後まで生活できるよう24時間相談できる、かかりつけ医の協力のもと看取りも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東館と西館があり、通所介護や小規模多機能ホーム、訪問看護を狭み込む形で同一建物内にあります。それぞれの事業所は自由に行き来が可能で、その中でも新たな顔なじみの関係が作られ、利用者が安心して暮らせる環境づくりがなされています。施設全体が落ち着いたきれいな建物で、清潔で整理された、法人としての理念がそのまま形となった支援をされています。地域との交流も盛んで、地域や事業所のイベントにお互いに参加し、協力関係構築し、地域においてなくてはならない存在となってきています。また看取りにも取り組まれており、建物内の全事業所を通して、この地域で最後まで暮らしていけるケアを提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週に一回は法人理念の唱和を行っています。名札の裏側にも理念を入れて職員一人一人が常に意識して行動が出来るようにしています。	朝礼時や法人全体研修時で確認し、仕事の根拠となるものであることを職員全員での共有しています。職員と共に、利用者も施設での生活に誇りが持てるように、丁寧な言葉遣いで利用者の尊厳を守るケアが実践されています。	更なるサービスの質の向上を目指すうえで外部の研修に参加するなどして、中重度の認知症高齢者のニーズに応えるためにも、職員自ら考え行動できるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、ご利用者様と一緒に参加をしています。ほたるコンサート、盆踊り大会、どんどや等。また、はなぞのケアセンター秋祭りには地域の方々へ参加の通知や案内を行い地域との繋がりを意識して取り組んでいます。	事業所の秋祭りに多数の地域の方々に参加していただく、また事業所側も地域行事のお手伝いをするなど、積極的な交流を行っています。地域で認知され信頼を得ることで、地域福祉の拠点となるような関わりに取り組んでいます。	行事だけでなく、日常的なボランティアの方が気軽に出入りできるような雰囲気づくりが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を用いて、ご家族や委員様に向けてインシ・アクシデントの報告や対策・対応を伝えて認知症の方への対応を仕方を参考にされています。また、公民館で近隣地域の方々対象に認知症サポーター養成講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、パワーポイントで資料作成し、ご利用者様の写真を載せて活動報告を行っています。インシ・アクシデント報告や身体拘束の取り組みについても報告し参加された委員、ご家族からご意見を頂き改善に繋げています。	参加された委員やご家族から積極的に意見が聞かれ、活発な会議が行われています。法人内の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行われているので、地域の様々な資源や協力、または課題等が入ってくる場となっています。	絵画を飾ることが認知症の周辺症状を抑える効果があるなど、具体的な意見が出ています。調べて事業所として返答されることで、出席者の事業所に対しての理解がより一層深まるのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回、熊本市の介護相談員が来所し、情報交換を行っています。運営推進会議には地域包括支援センターからの参加があり情報交換、共有しています。不明な点があれば、区役所に相談をしています。	運営推進会議にて地域包括支援センターとの連携は図れている。また市町村への報告・相談は行っているが、日ごろからの相談が少ないことは、事業所として認識しています。	介護相談員からの報告に対して対応を報告することが、相談員の有効的な活用となり、それが市町村との連携や関係構築になっていくのではないのでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間のみしています。法人で身体拘束委員会があり月一回のラウンド、勉強会を開催しています。運営推進会議で身体拘束委員会からの指摘事項に対しての取り組みを報告し職員全員意識して業務を行っています。	法人内で毎月勉強会や役職者による巡回にて、職員に対しての啓発や指導を行っています。拘束につながりかねない指摘に対しては、個別にカンファレンスで検討しています。	夜間不眠に対して日中の活動性を上げるなど、安易に薬に頼らない、本人の状態に合わせたケアの学習も職員の対応力向上につながるのではないのでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会主催の勉強会に参加して職員一人一人意識を高めています。気づきシート(ヒヤリはっと)で情報を共有して職員間で注意できる環境作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料や冊子を職員がいつでも閲覧出来るよう準備を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や利用申し込み時に家族の不安を聞いたり、契約時は契約書に沿って説明を行い家族からの理解を得ています。分からない場合は専門職に変わり返答して対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当施設内には、目安箱を設置しご家族やご利用者様からのご意見やご要望を求めているようにしています。面会時にもご家族から話しを聞いたり、満足度調査を行い意見を頂いています。	日ごろからご家族の面会時に話す内容から、事業所に対する思いや考えを聞き出せるようにしています。また年2回満足度調査を実施し、その結果を運営推進会議にて報告しています。	より具体的、内容ある意見、要望を聞き取るために、家族会で認知症の理解を深める発表を行うなど、家族の利用者への理解、利用者、家族の職員への信頼を深めていかれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティング時、GH合同会議で職員の意見を報告し共有改善に努めています。年2回の面接時にも職員一人一人から意見を聞き業務に活かしています。	合同会議で上がった意見をその場で検討し、業務に反映しています。個別で出てきた案件は、管理職が一人で抱え込むのではなく、上司に提案書として提出し、よりよい職場環境となるよう活かされています。	提案書として出された案件のフィードバックが必要です。その後の状況や解決法をしっかりと返していくことが、職員のストレスケアになり、より一体感のあるチームや職場風土となっていくのではないのでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、やりがいを持てるようなシステムを作っています。永年勤続者には全体会議で表彰を行ったり、年間計画を立て介護技術や認知症勉強会を開催して知識の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会、施設勉強会、外部研修会の案内を行い、自らが学びたい研修を選択出来る。今年度は介護実践者研修に参加、介護福祉士を受ける職員への勉強会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホームとの会議で情報交換を行ったり、外部研修、熊本市グループホーム連絡協議会やブロック会議等にも参加し情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族からの意見や要望を聞いて、良好な関係を築けるよう努めています。入居したばかりの方には行動や言動に注意をしながら様子を観察し時には不安を聞いたり安心して生活が出来るよう配慮に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に施設見学を行い、施設内の雰囲気を実際に体験してもらっています。ご家族から電話や面会時に普段の様子や質問がないかを聞いたりなるべくコミュニケーションをとるようにしています。日々の様子はお便りに写真を載せて報告を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験のある職員が、ご家族の思いや本人の状況、何が必要か求めているかを確認しながら汲み取る努力をしてアドバイスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はなるべくして頂き、過介護にならないよう注意しています。職員や他の入居者と一緒に洗濯干し、料理の準備、農園活動等に参加し共同で生活をしている雰囲気を出すように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回のお便りを通してご家族と本人との絆を保つように努めています。行事で、盆踊りや敬老会に忘年会等ご家族に参加の呼び掛けを行い一緒に過ごせる機会作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人等の面会がっており、同一建物内の通いのサービスの方との交流やボランティアの方々との交流も行っている。また地域の祭、盆踊り大会等に参加し顔なじみの関係を保つように支援している。	同一建物内の通所サービス利用者との交流が馴染みの関係を広げています。状態の変化があっても同一建物内の他のサービスを選択することができるので、関係が途絶えず安心した生活となっています。	定期的に利用者の行きたいところに行けるような支援に期待します。自宅だけでなく本人に馴染みの深い場所を訪れることができると、事業所での生活にもメリハリが生まれるのではないのでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来ている方は食事の時や創作活動時に会話が出来よう一緒にテーブルにしている。毎朝のレクレーションではご利用者様からお話をして頂く場面を設け関わりを持つように援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去されても医療機関等に面会に行ったり、退院後にグループホームに直接戻って来られない場合は御家族の意向をお聞きし法人内の事業所の紹介や再度グループホームに入居できるような体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前には自宅やご利用中の施設などへ訪問し事前の情報収集を行っている。また本人の思いを知る為に会話の時間を多く取り、記録に残したり家族へ内容を尋ねて本人の事を少しでも理解し検討を行っている。	利用者との会話を中心に、思いや意向の把握に努めています。また面会に来られた家族や友人に確認し、より掘り下げて聞き出すことで、職員の知らない利用者本人の人物像や明確にし、ケアにつなげています。	聞き出した思いや意向を、ケアに活かす具体的実践、方法、手段の工夫を検討されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書の確認と家族の面会時には出来る限り御本人との会話で不明な事、情報提供書に記入していない事、生活の様子を聞くようにしている。また日常の会話からも好きな事や特技を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの変化についての記録を行い、申し送り等で職員全員が把握出来るよう努めている。それぞれの特技を活かしたり日常行っておられた事の継続の食器洗いや、散歩や農園活動、そろばん、食事作り等残存能力の維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・ご本人・介護・看護・ケアマネで日常の情報交換、毎月のモニタリング、スタッフ会議での意見を反映させながらケアプランを作成している。	事前の情報収集から、介護支援専門員とリーダーがアセスメント・介護計画立案・モニタリングを行っています。カンファレンスでの意見を適宜ケアプランに反映し、よりその人らしい生活となるように作成されています。	最初のサービス担当者会議を自宅で実施することで、環境、人間関係など含め利用者の生活歴が見えてきます。その人らしいケアプランのために、より本人を知る取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時には前日までのケース記録・活動記録・申し送り簿に目を通し情報の共有を行い実践し計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のグループホームで連携を行い運動会・さつまいも収穫・花見・音楽会の実施、併設の小規模多機能ホームや通所との交流、合同の交流会等を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節毎の催し物(ほたるコンサート、盆踊り大会、文化祭等)に参加。グループホーム周辺の散歩等、外に出て生活にハリが出るような計画を立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿った医療機関へご家族での受診、家族が対応が難しい場合は職員で対応、受診時にはバイタル表を持参して頂いている。又、必要時には訪問看護師が病院との連携を行っている。	かかりつけ医だけでなく、専門医への対応も行っています。ご家族が過度の負担とならないように、普段からの連絡や相談に努めています。	家族負担増から提携医療機関に主治医変更した際、面会減少したケースもあったようです。適宜連絡相談をし、必要に応じた受診支援の継続に期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にバイタルや普段と様子が違う方は速やかに報告を行う体制と取っている。急変時には併設事業所の看護師とも連携をおこない適切な看護、介護、受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療を受けて頂ける様にご利用者の情報提供を行っている。入院中はご利用者の状態確認の為に訪問を行い病院の看護師や相談員の方から情報を得て病院との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に事前に状態悪化や重度化した場合の説明を行い同意を得ている。状態悪化の際はかかりつけ医師の協力の下、御本人、御家族の意思を尊重しその結果を受容し、方針の共有を図っている。4月から看取りを開始にあたり職員教育・研修を行い御本人、御家族の意志のもと1名看取りを行っている。	本人や家族のニーズに伴い、体制整備を行い看取りに取り組んでいます。事前に重度化した場合の説明と同意を行い、また状態変化時に必要に応じて意向を聞いていますが、家族間での意見が分かれるケースがあり、事業所としては困難さを感じています。	看取り介護を経験し、「もう一度自宅へ帰りたい。」という本人の願いを叶えられなかったことへの意見や思いが職員よりあがり、確実に成長につながっている様子です。今後も看取りの取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法、AEDの使い方等の実技講習を開催している。又、看護師による救急時の対応、リスク委員会によるKYT訓練や法人内のインシデント、アクシデントの情報共有を行い危険予知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を夜間想定・昼間想定と分けて実施している。また地域の方等には運営推進会議で避難訓練への参加協力の依頼、今後開催にあたり出来るだけ地域の方も参加して頂ける様に検討を行いたい。	定期的な避難訓練も実施され、地域の方々にも訓練への参加協力や、災害時の協力体制の依頼を検討しています。また熊本地震時には、地域の方々が避難してこられ、災害時の地域の拠点にもなっています。	実際の災害時の利用者や避難者受け入れのためにも、ライフライン連絡先の準備を期待します。被災前の備えの充実が、より大きな安心へと結びつくのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇研修や勉強会を通じて職員のスキルを向上させている。入居者の方はお客様という気持ちを忘れず、様付けでお呼びし、職員間でも常に言葉のかけ方について確認し合っている。	個人情報の流失しかねない事例を勉強会で共有したり、入居者の呼称を様付けで徹底したりと、法人のルールを職員全員が徹底しています。	「利用者個人の尊厳やその人らしさとは」ということが法人の理念として事業所内にあふれています。認知症の方の声に出せない思いの表出に努められることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけはゆっくりと分かりやすい言葉かけを行い出来るだけ本人の思いを聞くことが出来るように援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操やレクリエーションの声掛けは行っているが参加はご本人様の意思を尊重し部屋で休まれている方もおられます。又、ご利用者様からの希望ある散歩や制作などへの援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様に入浴時の衣類の準備をして頂いたり起床時や外出時には整容の援助を行い、散髪は定期的に美容院から来ていただき好みの髪型にカットをして頂くように援助を行い敬老会等の式典参加時はお化粧の介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士の作ったメニューの下、一人一人の食事が食べやすい様に食べやすい大きさに刻んだり柔らかくして提供を行っている。ご利用者様にも台所に立って食事作りや食後のお皿洗いを手伝って頂いている。	体操時に今日のメニューの紹介をしたり、きれいな盛り付けにこだわったりと、様々な工夫がなされています。またなるべく自分で食べることができるよう、個別に食器や配置も考えられています。	安全面への配慮のみならず、テーブルに花を飾ったり、わかりやすいメニュー表を掲示したりと、より食事を楽しめる工夫も取り入れてみてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の作ったメニューに沿って作り、水分摂取把握が必要な方はこまめな声掛けとコーヒーやココア等好みに応じて摂取をすすめ一日の水分量の記入を行い体調維持に努めている。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが可能な方は声掛けを行い自室への誘導を行っている。介助が必要な方は声掛で自力で出来る事は行って頂き介助が必要な部分の援助。口腔内の状況を確認し必要に応じて歯科医に相談を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	離床時や食前食後、席を立たれトイレを探されるなどのサインを見逃さずに声掛けを行いトイレ誘導を行いトイレでの排泄を援助している。ご利用者によっては同性の介助を個々の排泄パターンに合わせての支援を行っている。	日常の中でのサインや排泄パターンを把握し、さりげない誘導が行われています。可能な限り排泄の自立に向けて、トイレでの排泄の援助を目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給をこころがけ、チェックリストにて管理している。体操や散歩腹部マッサージを行い出来るだけ便秘にならない様に援助を行っている。又、必要時には看護師への排便の報告も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があった時には予定の入浴日以外にも対応を行っている。入浴は会話を楽しみながらゆっくり出来るように援助を行っている。	菖蒲湯やゆず湯等季節のお風呂や、一緒に歌を歌いながら入浴したりと、楽しみながらお風呂に入られるよう支援が行われています。	脱衣場の洗剤や洗濯用品がそのまま置かれていたりします。安全面や入浴を楽しむためにも配慮されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自が好きな時に部屋に戻り、休まれたりされている。又、午後は特別に活動を入れず、希望に応じてベッド臥床して頂いたりテレビや会話などその方の生活習慣で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分の内服確認リストや、処方箋の最新コピーを綴じたファイルを作っている。すべての薬を完全には把握出来ていないが、都度リストで確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の生活歴を活かした役割のお手伝いや楽しみごとの継続を援助し気分転換を図って頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内散歩・農園での収穫、法人グループホームの合同行事・地域行事への外出の支援を行っている。また家族の協力により、一時帰宅や、外食に出かけたりもしている。	受診時に少々遠回りでも、自宅近辺を通りドライブを楽しんだりしていますが、一人ひとりの希望に沿った外出は、まだまだできていないと認識されています。	まず一人ひとりの希望を把握するための情報収集や、その希望を実現するための事業所内のマンパワーだけでは難しいこともあるでしょう。ボランティアや社会資源が利用できるのかなど、様々な方向からの検討に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には御家族が管理されている。お金を持っている事で安心される方はご家族が少額を渡されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を本人希望の際は施設内に備え付の公衆電話で援助。時折遠方の家族からの電話はゆっくり会話をされる様に椅子を準備し援助。ご家族への手紙を書かれる方へはご家族へ渡す援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵を制作し廊下へ掲示している。食堂兼ホールは明るく温湿度の管理も行い心地よく過ごすことが出来るようにしている。	施設全体に掃除が行き届いており、デッドスペースに棚を入れたり、きちんと整理整頓されています。天井が高く、穏やかな自然の光が入るよう天窓があり、利用者はそれぞれゆったりと過ごしています。	大きな一枚窓から自然の景色を眺めたり、たくさんの木材が使われた落ち着いた雰囲気のある事業所は、グループホームの方針がそのまま表れているようです。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話が合う方同士のテーブル配置やソファに座ってくつろいで頂いたり、畳のスペースでは腰かけたり横になられたりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン・ベッド・洗面台・クローゼットの備え付けがある。ご自宅で使用されていたタンスや椅子、テーブル等を持ち込まれたり、家族の写真や飾りなどを飾られ思い思いの空間を作られている。	居室はクローゼットが広く、その中にタンスなどが入ってしまうため、整理整頓された空間となっています。	クローゼットに何でも入ってしまうので、写真立てなどもその中にあり、だれの居室かわからない整然とした印象です。利用者個人が見えるような工夫に期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレは出来るだけ残存機能を維持できるようにで手すりやバーを設置してある。活動作品や行事写真を見て楽しむ掲示板、裏庭の農園で収穫、畳スペースでの洗濯物たたみ等出来る事をして頂きながら充実した生活を送れるよう努力している。		